

# 多言語記述を目指した同一語句繰り返しの機能について

小野正樹（筑波大学）・呉佩珣・岩崎透（筑波大学大学院）

## 要 旨

本研究は、一文内に同一語句が繰り返される現象について、その発話目的を明らかにするものである。従来主観性を表す（坂原 2002、阿部 2007、酒井 2010 等）という主張がされてきたが、この表現形式には明確な発話目的として、文脈効果と差別化があることを主張する。日本語の本表現の使用実態を観察するために、日本語コーパス「BCCWJ-NT」を用いて、コソアの指示詞の繰り返し表現の頻度と、どのような文脈で使用されているかを、接続詞を手がかりとして調査を行った。そして、この表現は多言語に見られることから、中国語、ロシア語の対照記述についての分析も行った。

**キーワード:** トートロジー表現、言い換え、文脈効果、差異化、コーパス調査

## 1. はじめに

同一表現の繰り返しは、(1) のような一文内にも、(2) のような発話をまたいだ談話においても見られる。<sup>(1)</sup>

(1) 「無礼で傲慢とも言い得る。でも彼は彼だ」

「予想していなかったが、彼は気難しいようだから驚かなかった」

「我々は待つ。彼が何と言おうと彼が受賞者だ」

<https://feely.jp/54399/>

(2) A: 今度ウチの課に来ることになった佐藤、おまえのところにいたんだって？ どう？

B: 優秀な社員だね。

A: どんなふうに？

B: とにかく 優秀な社員だな。

山岡・牧原・小野（2010）

こうした文の発話目的は何であろうか。(1) の形式の表現はトートロジー表現ともされてきた（坂原 2002、阿部 2008、酒井 2010ab）が、トートロジーという表現は、論理学の用法とされる。以下に『哲学中事典』（2016）、『ラールス哲学事典』（1998）の記述を記す。

(3) 『哲学中事典』和泉書館（2016:886）

ふつう「同語反復」「同義反復」と訳されるが、記号論理学では「恒真命題」（つねに真である命題）を意味する。伝統的形式論理学では、「A は A である」というように同じ概念を繰り返すことである。また「父は男親である」という命題も実質的にトートロジーである。記号論理学ではウィトゲンシュタイン（『論理哲学論考』）に従って、論理的に真なる命題ないし論理的法則はトートロジーと命名される。つまりそれは、部分命題の真理値に関わりなくつねに真となる命題であるが、現実世界については何も語らないという点で「A は A である」と同じ性質をもつ。

(4) 『ラールス哲学事典』 (1998:314-315)

トートロジーとは言葉を変えただけの単なる反復を、我々の認識を拡張する新しい命題として提示することである。トートロジーが同じ意味をもつ二つの命題（例えば、「すべての人間は死ぬ」と「死なない人間はいない」）を指すのに対し、冗語法は、単に同じ意味を持つ二つの語を指す（例えば、「人民民主主義」は冗語法である。民主主義とは定義上、人民の政府〔ギリシア語の人民命令する、から〕だからである）。本研究では論理の追究ではなく、表現形式からの分析を考える立場から、同一表現の繰り返しという用語を用いることとする。同一表現を繰り返すことは、Grice(1975)の「協調の原理」量の原則 (maxim of quantity)

1. 発話に（会話の目的にとって）必要なだけの情報を盛り込むこと。
2. 発話に必要な以上の情報を盛り込まないこと。

にも違反することから、特別な発話目的があると思われる。『ラールス哲学事典』の「認識を拡張」という定義に注目したい。また、本論では「N1 は N2」という N1、N2 という記号を用いるが、N1 と N2 は、同一名詞句であることを強調しておく。

## 2. 同一表現繰り返しの機能

日本語における「N1 は N2」と言う構文を見ると、「N1 は」の直後に様々な副詞表現が見られる。

- (5) 背錦紗の軍人は日系人全体を危険視し「ジャップはしょせんジャップだ」と述べていた。それに抵抗したのが日系 2 世の若者、フレッド・コレマだった。

「天声人語 2017 年 2 月 2 日『朝日新聞』

- (6) ウルグアイとアルゼンチンが 2 回、イングランドとフランスが 1 回。つまり、強い国はやっぱり強い、のです。第 6 回スウェーデン大会で、初優勝を果たしたブラジル。

木村嘉代子 (2002) 『ビバ！ワールドカップ すべてのサポーターへ』 講談社

- (7) 冬薔薇ぼくはとにかくぼくでいる

<http://www.gendaihaiku.gr.jp/cgi-bin/area/view2.cgi?num=17>

- (8) ぼく いつのまにか 日本を愛してた 病理をいっぱい抱えた日本

政治家官僚業界 権力者たち 少しの人間がなんでも決めて

自分たちに都合がいいように ぼくが愛する日本を操縦してる

でもぼくは それでもぼくは 日本を愛してる

[http://www.kodomo-hou21.net/\\_action/saiwai.html](http://www.kodomo-hou21.net/_action/saiwai.html)

(5) の「しょせん」 (6) 「やっぱり」 (7) 「とにかく」 (8) 「それでも」という副詞はいずれも、話者の再認識を表していよう。このことから、N1 と N2 という同一表現を繰り返すことは、阿部 (2008) 他が指摘するような「主観性」では説明しきれなく、「認識を拡張する表現」と考えたい。そこで、本研究では、次の詩を考察のきっかけとして、論を深めたい。

- (9) ぼくはこどもじゃない

ぼくはぼくだ…………… ①

ぼくはおとなじゃない

ぼくはぼくだ…………… ②

ぼくはきみじゃない

ぼくはぼくだ…………… ③

だれがきめたのかしれないが

ぼくはうまれたときからぼくだ

だからこれから

ぼくはぼくをやっていく…………… ④

ぼくはぜったいにぼくだから…………… ⑤

なんにでもなれる

エイリアンにだってなれる

谷川俊太郎（2013）「ぼく」

この詩から、「ぼくはぼくだ」（①、②、③）では「こどもじゃないこと」「おとなじゃないこと」「きみじゃないこと」という他者との区別という認識拡張と、「ぼくはぼく」「ぼくはぜったいにぼく」（④、⑤）という自者の強調という認識に区別できよう。そこで、次の仮説を考える。論理的には、N1が発話された後に、N2を述べることでN1を再認識する。この結果、N1がN2として異なるものとして認識する、あるいは、N1がN2として強化されると考える。前者を「差別化用法」とし、後者を「文脈効果用法」とする。

### 3. コーパスから見る同一表現繰り返し表現

どれほど、こうした同一表現の繰り返しが見られるかを、現代日本語書き言葉均衡コーパス「BCCWJ-NT」から抽出したデータから数量的に記す。

#### 3.1. 調査方法について

① BCCWJ-NTにて、主に以下の4つの条件で検索をかけ、エクセルのデータを作成し、共通の条件として繰り返し表現の前文脈50語、後文脈50語を抽出対象データに指定した。

条件1【名詞】＋【助詞】＋【名詞】

条件2【代名詞】＋【助詞】＋【代名詞】

② 上記①で作成しデータから前後の語句が同一のものを抽出し、その結果については以下に記す。

#### 3.2. 調査結果

表1 調査データ数及び繰り返し表現の出現状況

種別	調査データ数	繰り返し表現出現数	出現率 <sup>(2)</sup>
名詞＋助詞＋名詞	200,000	752	0.38%
代名詞＋助詞＋代名詞	45,230	3,218	<b>7.11%</b>
合計	256,269	4,401	1.72%

表 2 指示代名詞（これ、それ、あれ）の繰り返し表現の出現状況内訳

繰り返し表現	出現数	代名詞データ数中の出現率 <sup>(3)</sup>	全体データ数中の出現率 <sup>(4)</sup>
これはこれ	371	0.82%	0.15%
それはそれ	966	<b>2.14%</b>	<b>0.38%</b>
あれはあれ	115	0.25%	0.05%

表 1、表 2 から代名詞の繰り返しが多く、その中でも「それはそれ」が多いことは文脈指示表現での使用が多いと言うことが予想できる。

(10) もしわれわれが法律的に、また医学的に、歴史を作るといようなことがあるなら、それはそれでけっこうじゃありませんか」彼は満面で微笑した。

ウィリアム・カッツ (1987) 『恐怖の呼び声』新潮社

次に、こうした同一語句の繰り返し表現が、どのような文脈で用いられるかを、前後に出現した接続詞を観察する。まず、前節では、順接の「だから」「そこで」「したがって」「それなら」、逆接の「けれど」「ところが」の接続詞が現れる頻度が高い。一方、後節には、「そのため」「それでは」「ゆえに」、「しかし」「ものの」「にもかかわらず」という表現が見られる。このことから、同一表現の繰り返しの前後には、順接であれ、逆接であれ、繰り返し表現の前後に認識が変わることが読み取れる。

表 3 繰り返し表現と共起する順接系接続詞の一覧<sup>(5)</sup>

接続詞	前文脈出現数	前後比（前）	後文脈出現数	前後比（後）
だから	158	<b>66.4%</b>	80	33.6%
すると	61	52.1%	56	47.9%
それで	34	56.7%	26	43.3%
そこで	18	<b>75.0%</b>	6	25.0%
したがって	11	<b>68.8%</b>	5	31.3%
それなら	5	<b>71.4%</b>	2	28.6%
そのため	4	33.3%	8	<b>66.7%</b>
それでは	2	40.0%	3	<b>60.0%</b>
ゆえに	1	33.3%	2	<b>66.7%</b>
合計	294	61.0%	188	39.0%

表 4 逆接系接続詞の繰り返し表現との共起状況

接続詞	前文脈出現数	前後比（前）	後文脈出現数	前後比（後）
でも	194	47.5%	214	52.5%
しかし	27	19.4%	112	<b>80.6%</b>
（な）のに	74	49.7%	75	50.3%
だけど	43	<b>61.4%</b>	27	38.6%
ものの	12	41.4%	17	<b>58.6%</b>
ところが	22	<b>59.5%</b>	15	40.5%
にもかかわらず	1	25.0%	3	<b>75.0%</b>
合計	373	44.6%	463	55.4%

前文脈の「そこで」「しかし」、後文脈の「それゆえ」「しかし」の例文を挙げる。

- (11)（前節強化の例文）彼の家族は関係ないなんて、そんなわけにはいかないです。手土産持って行って礼もいわないなんて小学生でもお礼くらいはいえますよ。そこで母親をかばう彼も彼。普通「礼ぐらい言えば？」ってたしなめるものです。あなたの味方になってくれないと思いますよ。

「Yahoo!知恵袋」より

- (12)（前節否定の例文）「そうだよ、太ア坊、ノミだよ、しかしノミはノミでもただのノミじゃないのだよ。

横溝正史（1995）『怪獣男爵』角川書店

- (13)（後節強化の例文）十九歳の時の純愛が純愛に終わったように、それゆえにこそというべきか、かの歳上のひとそっくりのお松さんとも結ばれぬままになってしまった。

筒井康隆（1996）『最後の伝令』新潮社

- (14)（後節を前提とする例文）「娘は、いつ結婚できるんでしょうか」と結婚相談をしたことは私を激怒させ、およそ半年ちかくの絶交期間があったのだったが、いつのまにか国交修復がなっていた。怒りは怒りとしてあるのだったが、しかし母にも情状酌量の余地はある。

氷室冴子（1993）『冴子の母娘草』集英社

この前節を強化というのが「文脈効果用法」であり、否定したり、前提化するものを「差別化用法」と考えたい。

## 4. 中国語の例

### 4.1. 中国語における繰り返し表現の形式

中国語の基本文構造は「主（主題）＋謂（説明）」であり、両者間の判断関係を表す際に「是（shì）」という繫辞を用いる。「X 是 Y」構文において、X は主題で、Y は論述である。「是」を介し、同位関係（15）や所属関係（16）が表現される。（周 2007:2）

(15) 他 的 叔叔 是 相梁。  
彼 の 叔父 繫辞 人名  
(訳:彼の叔父は相梁である。)

(16) 我 是 你 的 祖先。  
私 繫辞 あなたの 祖先  
(訳:私はあなたの祖先である。)

(周 2007:2、意味と訳は筆者による)

しかし、「X 是 X」という一文内に同一表現が繰り返されるものが見られる。X は名詞・動詞・形容詞であることが可能である。

(17) 昨天 是 昨天  
昨日 繫辞 昨日

(18) 知道 是 知道  
知っている 繫辞 知っている

(19) 好 是 好  
良い 繫辞 良い

(作例)

繫辞「是」は「就」「就是」「到底」「倒是」「到底是」「歸」などの表現として現れることもあるが、必ずしも互換性を持つわけではない。

#### 4.2. 文脈強化

文脈強化の「N1 是 N2」は、前者の N1 は文脈により指示される対象であり、特定の意味合いを持つものであるのに対し、後者の N2 は一般通念の概念を持つものである。中国語の文脈強化を表す繰り返し表現の例は (20) と (21) が挙げられる。

(20) 正如湖南煤炭厅刘绪周厅长所说的那样:“困难是困难, 工作还得干。”

(訳:湖南煤炭厅の劉緒周庁長が言った通り、大変は大変だが働かなくちゃ。)

(21) 但如不作实际安排, 就同有些规定的执行一样, 规定是规定, 到冬天依旧有不少人给枯枝败叶举行“火葬”。

(訳:実際に(落ち葉の処分について)手配をしておかないと、ルールを実行するとうように、ルールはルールとして、冬になると落ち葉を燃やす人がやはりたくさん出てくるのだ。)

(『CCL』、訳と下線は筆者による)

(20) では、前者の「困难」は文脈により「湖南煤炭場の仕事が大変である」ことを指し、この大変さは後者の一般通念の「困难」と変わらない意味合いを表している。(21) も同様、前者の「規定」は文脈中の特定のものだが、後者の一般通念の「規定」のように、守らなければいけないといった性質を持つことを意味する。

日本語における文脈強化の同一表現繰り返し文では、後文脈は前文脈の流れに従わなく、つまり、後者の N2 による一般通念の概念を主張するようなものも多く見られる。それに対して、中国語ではこの種の繰り返し文は、「N1 是 N2」を介して、一般通念の概念を表す後者の X が提示されているにもかかわらず、後文脈は前文脈に沿ったものになることが多いと観察される。例えば (20) は「いくら大変であっても仕事はする」、(21) は「ルール

に反する行為を行う」というような前文脈と認識が異ならない。一方、(22)では、後文脈の「顔を真っ赤にしてうつむく」のような行動を取る娘は、前文脈での「お転婆」の娘がするような行動をとらない、つまり前文脈とは認識が異なるのである。

(22) いくら男を泣かせるようなお転婆とはいえ、娘は娘、突然の告白を受けて、顔を真っ赤にしてうつむいてしまったのだ。

(『BCCWJ』、下線は筆者による)

#### 4.3. 差異化

中国語の同一表現繰り返し文にも差異化という機能を担うものが存在する。差異化を機能する繰り返し表現は「A と B は異なる」という意味合いを表す。この種の繰り返し表現は差異を強調しようとする両者は、(23) のように「A 是 A, B 是 B」の2つの繰り返し表現が並んで現れ、対比の意識が強い。または(24)のように「A 是 A」の前後の文脈にその対象 B が見られる。

(23) 本来父亲是父亲, 老板是老板, 但是这个儿子把他们搅在一起了。

(訳: 本来なら父親は父親、上司は上司だが、この息子は一緒にしてしまっている。)

(24) 莎拉波娃很不愿意媒体把她与库娃作比较。“我就是我, 我不是你们说的新库娃,” 她说。

(訳: シャラポワはマスコミにクルニコワと比べられるのが嫌で、「私は私、あなたたちが言っている新クルニコワじゃない」と言っている。)

(『CCL』、訳と下線は筆者による)

(23) では、「父親」と「上司」は人間関係において異なる関係であり、扱いも異なるはずだが、自分の父親が上司でもある文脈中の「息子」には同一視されてしまっている。そこで、聴者に対して両者の差異を強調するため、「父亲是父亲, 老板是老板」という同一表現繰り返し文が用いられる。同様に、(24)の「我就是我」は、マスコミにクルニコワの比較対象として扱われたシャラポワが、自分自身とクルニコワとは異なる個体であることを聴者に伝えるのには、差異化を強調する機能が働いている。ここでは、副詞「就」の付加によって、主張が強化されている。

#### 4.4. 「是」と「就是」

「就 (jiu)」は副詞でもあり、繫辞の機能をも持っている (Li & Thompson 1989 [黄 2012:239])。繰り返し表現に用いられる「就是」は「就」のみで単独に使用されうる。「是」より主張が強く、繰り返し表現において「是」と置換できる場合もあれば、できない場合もある。(25) と (26) の「N1 是 N2」は「N1 就是 N2」と置換不可能である。置き換える場合、後文脈を前文脈と逆接的な内容に換えれば許容できるようになる。

(25) 正如湖南煤炭厅刘绪周厅长所说的那样: “困难是困难, 工作还得干。”

(訳: 湖南煤炭厅の劉緒周庁長が言った通り、大変は大変だが働かなくちゃ。)

(26) 但如不作实际安排, 就同有些规定的执行一样, 规定是规定, 到冬天依旧有不少人给枯枝败叶举行“火葬”。

(訳: 実際に(落ち葉の処分について)手配をしておかないと、ルールを実行するというように、ルールはルールとして、冬になると落ち葉を燃やす人がやはりた

くさん出てくるのだ。)

((20) (21) による再掲)

また、(27) と (28) は「N1 就是 N2」表現が使用されるが、「N1 是 N2」と置換不可能の例である。

(27) 琳琳先是笑然后哎呀一声说：“那可不行！”

我说：“怎么不行？”

“不行就是不行你懂什么？”

(訳：琳琳が笑ってこう言った。「それはダメよ。」)

私は「なんでダメなの？」を言った。

「ダメなのはダメなのよ！あなたには何が分かるの？」)

(28) 国际足联表示, 规定就是规定, 如果每个国家的参赛队都希望按照自己的愿望特殊处理球员的球衣编号, 那么就会产生混乱。

(訳：国際サッカー連盟は、ルールはルールなので、もし各国から来た各チームの要望に背番号をつけていくと大混乱になってしまうと述べている。)

(『CCL』、訳と下線は筆者による)

その一方で、「N1 是 N2」と「N1 就是 N2」との間に自由に置き換えられる場合もある。例えば (29) と (30) は置き換えても意味が変わらないものである。

(29) 本来父亲是父亲, 老板是老板, 但是这个儿子把他们搅在一起了。

(訳：本来なら父親は父親、上司は上司だが、この息子は一緒にしてしまっている。)

(30) 莎拉波娃很不愿意媒体把她与库娃作比较。“我就是我, 我不是你们说的新库娃,”她说。

(訳：シャラポワはマスコミにクルニコワと比べられるのが嫌で、「私は私、あなたたちが言っている新クルニコワじゃない」と言っている。)

((23) (24) による再掲)

つまり、文脈強化の繰り返し表現は置換不可能であるのに対し、差異化を強調する機能を果たす繰り返し表現は置換可能である。文脈強化の繰り返し文は、繰り返し表現を介して、「是」か「就是」かによって前後文脈の関係が順接か逆接かに変わる。(25) と (26) は「N1 是 N2」で前後文脈が順接関係であり、(27) と (28) は「N1 就是 N2」が使用される文で、前後文脈は逆接関係が表現される。それは、強い口調を表す「就」が用いられることによって、「就」の直後の N2 の意味合いが強化されるためであると考えられる。一方、単なる判断関係を表す「是」の場合は、直前に来る N1 は主題として取り立てられ、後者の N2 は主題に対する説明という役割を担うにすぎないため、前後文脈は順接関係になるのであろう。差異化を強調する繰り返し表現は、文中内にある要素間の差異に焦点を当て、差異化を強調するところに繰り返し表現の効力がとどまるのである。

#### 4.5. まとめ

本節では、中国語における同一表現の繰り返しについて文脈強化および差異化の2点から考察を行った。文脈強化では、日本語の同一表現繰り返し文は、後文脈は前文脈の流れに従わずに後者の X による一般通念の概念を主張する傾向が見られる。それに対して、中国語は、「N1 是 N2」により、一般通念の概念を表す後者の N2 が提示されているにもかかわらず



ならず、後文脈は前文脈に沿ったものになることが多いと観察される。次に、差異化は「N1 と N2 は異なる」という意味合いを含意し、出現形式としては「N1 是 N2, N1 是 N2」のように平行して出現したり、「N1 是 N2」のように単独に現れることもある。

最後に、差異化の機能では、繫辞「是」は強い口調を表す副詞の「就是」と置換しても文の意味合いが変わらないが、文脈強化では変わる。「N1 是 N2」を「N1 就是 N2」に置き換えた場合は、後文脈は後者の N2 に焦点を当て、後者の N2 の持つ一般通念の概念が強化されるような文脈になるのである。

## 5. ロシア語の同一表現繰り返しの例

本節ではロシア語母語話者の協力の基、繰り返し表現がどのように用いられているのか、以下にロシア語の繰り返し表現の基本的な形式や、用例などの調査結果を記す。

### 5.1. ロシア語で繰り返し表現に用いられる単語—動詞「есть (イエスチ)」指示詞「это (エタ)」—

「есть」は日本語における存在動詞「ある」「いる」に近い単語である。他に「はい（了解）」「食べる」などの様々な意味があり、本稿における繰り返し表現では日本語における副助詞「は」のような働きをしている。

「это」は基本的には「これ、それ」の意味で使われる品詞である。副詞や代名詞を強調する役割でも時折使われ、日本語における終助詞「ね」のような振る舞いをすることもある。本稿における繰り返し表現では日本語における副助詞「は」のような働きをしている。

### 5.2. 文脈強化におけるロシア語の繰り返し表現

#### (31) 【девушка есть девушка 「娘は娘」】

“Обычно бойкая – даже, бывало, заставляла мужчин плакать, - но девушка есть девушка (всё-таки еще молодая, девушка) покраснела и не могла поднять голову, когда неожиданно он признался в любви.”

(訳:いくら男を泣かせるようなお転婆とはいえ、娘は娘、突然の告白を受けて、顔を真っ赤にしてうつむいてしまったのだ。)

(BCCWJ の繰り返し表現使用例を基に、ロシア語母語話者に翻訳を依頼して作成)

日本語における文脈強化の繰り返し表現が、ロシア語でも現れる用例である。やや書き言葉的になり話し言葉としてはあまり使われないが、動詞「есть」を使い«девушка есть девушка»という表現を用いている。この繰り返し表現部分を別のロシア語の表現に置き換えると«всё-таки еще молодая, девушка»(直訳すると「やっぱりまだ若い女の子」)となり、日本語における繰り返し表現とほぼ同じ意味であることがわかる。ロシア語においても文脈強化の繰り返し表現が存在することを伺わせる一例と言えるだろう。

#### 【работа есть работа 「仕事は仕事」】

ロシア語における文脈強化の繰り返し表現として「仕事は仕事」が挙げられるだろう。

(32) “Но улице весна, хочется гулять весь день, но работа есть работа, мне нужно идти в университет, студенты ждут.”

(訳:「外は春で、一日中散歩をしたかったが、仕事は仕事。私は生徒が待つ大学へ行かなければならない。」)

(ロシア語母語話者による作例)

ここで用いられる「仕事は仕事」という繰り返し表現は文脈上“долг”(義務)の意味を発生させており、日本語における「仕事は仕事」という文脈化の繰り返し表現と非常によく似ていることがわかる。しかしロシア語における「仕事は仕事」では日本語では直感的に理解しにくい解釈も存在している。この«работа есть работа」という繰り返し表現は文脈によって「仕事は无尽蔵にある」というニュアンスになり「仕事はいつでもあるんだから、時々休んでもかまわない」という意味になることがある。文脈強化における繰り返し表現は、時に他文化の予期しない解釈を生み出すことがある例といえるだろう。

### 5.3. 差異化におけるロシア語の繰り返し表現

日本語における差異化の繰り返し表現「親は親、僕は僕」は、ロシア語でもほぼ同様の意味を表す形で使用される。

(33) Мои мама и папа – филологи, они любят русскую классическую литературу а я предпочитаю современную фантастику, потому что родители-это родители, а я-это я.

(訳:父と母は言語学者で、彼らはロシアの古典文学が好きだが、私は近代小説を好んで読む。親は親、私は私なのだから。)

(ロシア語母語話者による作例)

この用例では「親と私は違う」という意味で繰り返し表現が用いられている。この「親は親。私は私」という表現は、家族間などで互いの考えの食い違いから喧嘩になった際に папа-это папа, а я-это я (お父さんはお父さん、私は私でしょ) 自分の考えを押し付けないでほしいという文脈で、差異を強調するために用いられることもあり、日本語の繰り返し表現と非常に似通った傾向があることがわかる。

### 5.4. 日本語とロシア語の繰り返し表現における傾向

ロシア語にも「文脈強化」「差異化」の繰り返し表現があり、日本語と類似した傾向があることが示唆されたが、中には日本人では予測しにくい解釈を持つ繰り返し表現が存在し、細部では違いがあることが確認された。このことから繰り返し表現の解釈はその言語を扱う母集団の文化的背景に強く依存している可能性があり、その詳細については更なる調査が必要であることがわかったといえるだろう。

## 6. まとめ

本稿では、文脈効果と差別化の観点から、同一表現の繰り返しについて観察と、分析を行った。従来、論理的には恒真式という定義、言語学的には主観性という主張から、具体的な表現パターンや、その用法を明らかにした。また、本研究の考える「文脈効果用法」と「差別化用法」の区別が、中国語、ロシア語にも見られることを述べ、各言語には異なる用法があることを見た。今後、この二つの用法の明確な定義と、より多言語の分析を進めて行きたい。

## 注

- (1) 本文中の出典を示したデータ中の下線は筆者によるものである。
- (2) 種別毎に繰り返し表現が出現した比率を表している。例えば【名詞＋助詞＋名詞】では、調査データ数 200,000 件中 752 件の繰り返し表現があったことから、 $752 \div 200,000 = 0.38\%$  という計算になっている。
- (3) 【代名詞＋助詞＋代名詞】の件数 45,230 件中、「これはこれ」などの指示代名詞を用いた繰り返し表現が出現した程度を記す。
- (4) 今回の調査で調べた全件数 (256,269 件) 中、どの程度「これはこれ」などの指示代名詞を用いた繰り返し表現が出現したかを記す。
- (5) 表 3、表 4 では、繰り返し表現の前後 1 文以内に順接、逆接の接続詞がどの程度現れたかを表記している。前後比は、その接続詞が前文脈で出現した比率と後文脈で出現した割合を表している。

## 参考文献

- 阿部宏 (2007) 「トートロジーと主観性について」日本認知言語学会第 8 回大会 (於成蹊大学, 2007 年 9 月 22 日) 発表ハンドアウト
- 小野正樹 (2015) 「言い換えマーカの記述試案—言い換え行為の体系的理解を目指して」『日本語コミュニケーション研究論集』第 4 号:1-10
- (2016) 「言い換え表現と配慮表現から見たトートロジー表現について」『日本語コミュニケーション研究論集』第 5 号:19-30
- 酒井智宏 (2010a) 「トートロジーの主観性の源泉でないもの」『東京大学言語学論集』30:195-214
- (2010b) 『トートロジーの意味を構築する : 「意味」のない日常言語の意味論』くろしお出版
- 坂原茂 (2002) : 「トートロジーとカテゴリ化のダイナミズム」『認知言語学 II: カテゴリ化』(大堀壽夫編), シリーズ言語科学 3, 東京大学出版会, pp. 105-134.
- 周國正 (2007) 「從漢語信息結構框架看繫詞「是」形成的動因」『臺大文史哲學報』(66):1-16
- 東京外国語大学留学生日本語教育センターグループ KANAME (代表 鈴木智美) 編著 (2007) 『複合助詞がこれでわかる』ひつじ書房
- 山本尚子 (2010) 「「A も A だ」構文の意味解釈」『日本語用論学会大会発表論文集』6 号日本語用論学会事務局編:137-144
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現—日本語語用論入門』明治書院
- Charles N. Li & Sandra A. Thompson (1989) Mandarin Chinese: A functional reference grammar. Univ of California Press. [黄宣範 訳 (2012) 『漢語語法』文鶴出版有限公司]
- Grice, H.P. (1975) "Logic and Conversation", in Cole and Morgan, op.cit:41-58

## 使用データ

- ウィリアム・カッツ (1987) 『恐怖の呼び声』新潮社

木村嘉代子（2002）『ビバ！ワールドカップ すべてのサポーターへ』講談社  
『現代日本語書き言葉均衡コーパス 少納言』大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国  
語研究所と文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」プロジェクト  
<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>  
『現代汉语语料库』オンライン版、北京大学中国語学研究センター  
[http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/)  
子どもと法 21 [http://www.kodomo-hou21.net/\\_action/saiwai.html](http://www.kodomo-hou21.net/_action/saiwai.html)  
谷川俊太郎（2013）「ぼく」童話屋  
地区活動 - 現代俳句協会 <http://www.gendaihaiku.gr.jp/cgi-bin/area/view2.cgi?num=17>  
筒井康隆（1996）『最後の伝令』新潮社  
「天声人語 2017 年 2 月 2 日『朝日新聞』  
氷室冴子（1993）『冴子の母娘草』集英社  
横溝正史（1995）『怪獣男爵』角川書店  
feely.jp <https://feely.jp/54399/>  
Yahoo!知恵袋

#### 辞書・辞典

『哲学中事典』（2016）和泉書館  
『ラールス哲学事典』（1998）pp. 314-315 弘文堂

（小野正樹、筑波大学人文社会系、[ono.masaki.ga@u.tsukuba.ac.jp](mailto:ono.masaki.ga@u.tsukuba.ac.jp)）  
（呉佩珣、筑波大学大学院博士後期課程、[s1630053@u.tsukuba.ac.jp](mailto:s1630053@u.tsukuba.ac.jp)）  
（岩崎透、筑波大学大学院博士前期課程、[mizuhukurou@gmail.com](mailto:mizuhukurou@gmail.com)）